

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2794000345		
法人名	社会福祉法人ウエル清光会		
事業所名	グループホーム輝豊苑		
所在地	大阪府豊中市上野東2-4-47		
自己評価作成日	平成 28年 8月 31日	評価結果市町村受理日	平成 28年 11月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2794000345-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 9月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中でその人らしい生活ができるよう、地域のイベントや集会には積極的に参加し、地域連携をしています。勉強会や研修をととして職員のスキルアップに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内にある1階がデイサービス、2階が2ユニットのホームは、4年目を迎えました。道路に面した花壇には、花が咲き、2階には中庭があり、自然の採光と共に野菜や木々を眺め、季節を感じることができます。法人理事長が作成した「ウィル・フィロソフィ」は、人としての生き方、働き方、考え方などの具体的な行動を示しており、朝礼で職員が理念と共に唱和しています。職員や職員の家族も大事にすることが、利用者や家族を大切にできることとの考えを持ち、利用者や職員、家族の信頼関係に繋がっています。職員全体のケアの質を高めるために、教育にも力を注いでおり、様々な取り組みを始めています。ショートメモを活用して、小さなことに気付く力、必要なことをきちんと言語化して伝える力、創造性を養う力など、朝礼での3分間スピーチや法人内の研究発表会、職員自らテーマを決め講師を務める学習会など実施する中で、質の向上に繋がっています。風通しの良い職場環境の中で、ケアの柱である「パーソン・センタードケアの「利用者が主人公であること」を常に意識し、自己選択に向けた支援を心がけています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎日の朝礼時に全員で唱和し、共有している。	法人の理念として「全従業員の物心両面の幸福の追求と、福祉を通じて三方笑顔を創造し、社会の成長発展に貢献します」を掲げています。毎朝の朝礼では、理念と合わせて、法人で作成した、「ウィル・フィロソフィ」の一説を読み上げています。「ウィル・フィロソフィ」は、理念を具現化するための指針となっており、「常に創造的な仕事をする」「それぞれの役割で主人公になる」など多角的な視点から、福祉の理念として、また、人として、大切なことが記されています。また、今後は、グループホーム独自の理念や目標を作成するため、職員間で話し合っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の会合などにも積極的に参加し、交流を図っている。 利用者様と地域の祭りやイベントに参加する機会を作っている。 敬老会の方は、運営推進会議や避難訓練に参加して頂いている。	町内会に加入し、会報等で地域や小学校の行事の情報を得て、夏祭り、地域の敬老のつどい等に参加し、地域との交流を図っています。 犬の散歩等で通る人達が、ホーム外の歩道で花を見ている利用者に声をかけてくれます。また、買い物等でホームの制服を着た職員に話かけてくれる等、日常的に地域の人達との交流ができています。地域老人会のホーム見学や、避難訓練に老人会の参加があること、ホームの主食である米は地域の農家で購入するなど、地域とのつながりができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	職員は定期的に認知症についての勉強会を開催しており、地域の方からの相談の窓口でありたいと思っている。 事業所連絡会や校区の高齢部会等の集まりに積極的に参加させて頂き、民生委員の方と意見交換等をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している運営推進会議では活動報告を行い、今後の予定については参加者の意見を取り入れ、改善につなげている。	運営推進会議の規程を定め、規程に沿って会議を開催しています。 出席者は、地域包括支援センター職員、市社会福祉協議会職員、介護相談員、民生委員、老人いこいの家代表、利用者家族等です。会議開催日を家族が出席しやすい日に設定し、事前に家族全員に知らせています。会議では事業の活動報告、行事内容、家族会の報告等を行い、出席者からはアドバイスや情報の提供を受けています。情報から、職員は徘徊SOS模擬訓練に参加し貴重な経験をしています。会議内容は家族会(2か月に1回開催)で報告すると共に、議事録は家族全員に送っています。ユニット出入り口にも会議録を設置し、いつでも見ることができます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には各関係者へ活動報告を行い、今後の計画についての意見交換を行っている。	市が開催する事業所連絡会や学習会への参加、介護相談員の受け入れを行っています。また、日頃から密に相談や報告を行い、協力関係を築いています。市と協力して、地域へ向けて何ができるかを考えながら、事業を展開しています。現在も法人の空いた畑の活用法について市に相談し、地域へ還元することも考えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内だけでなく、法人内の研修でも身体拘束について全職員が学んでおり、実践している。	職員は身体拘束廃止や虐待防止、人権に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアを認識しています。 声かけをせずに行うケアや、立ったまままでの挨拶も「不適切ケア」とし、日頃のケアについて職員間で確認しています。ユニットリーダーは、職員のストレスに気を配り、声かけや会話を通し、側面からも拘束や虐待をしない支援を行っています。 ホームは建物の2階にあり、ユニット玄関や、階段、エレベーターは夜間以外自由に行き来、利用できます。階の総合玄関は安全のため施錠していますが、利用者が外出したい様子が解った時点で、職員はさりげなく後から同行し、外での散歩や館内の自動販売機での飲み物購入等で利用者が気分転換でき納得するまで対応をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じく、虐待について学び、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会では成年後見制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には十分に時間を取り説明を行い、質問にも答えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他に家族会を開催し、施設の報告や懇親の場として活用している。	家族会は2か月に1回開催しています。できるだけ多くの家族が参加できるよう、運営推進会議と家族会の日程を、日曜日と平日に分けて設定し、どちらかに参加できるよう工夫しています。家族会には多くの家族が参加し、バーベキューや喫茶など食事を一緒にすることで、家族同士の関係、職員と利用者との関係が構築されてきました。職員は、常に利用者、家族の意見を大切にしてケアを行っています。また、家族の来訪時には、お茶を出し、積極的に交流を図る中で、意見や要望が出しやすい関係となりました。家族からの要望で、後見人についての学習会も行いました。	家族会があり、直接要望や意見を聞くことが多いことや、設置場所の確保が難しいことから、意見箱を設置していません。しかし、直接職員に要望を出せない家族もいるとの認識を持ち、いつでも自由に意見や要望を出せる環境があることは重要です。声を聴く姿勢があることを形として示すためにも、意見箱の設置を検討してははいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスでは意見交換を行い、また、職員面談の際に個別の意見を聞いている。	管理者・リーダーは、職員の思いや意向を把握するために、2～3か月に1回、個人面談を行っています。また、日頃より、気になることがあれば積極的に声をかけ、話しやすい関係づくりに努めています。各職員の誕生日には、理事長と直接テレビ電話で面談する機会も設けており、風通しの良い職場環境を整えています。毎月の学習会は、職員一人ひとりが役割をもち、企画運営を行っています。これらの取り組みは、ケアの質の向上、モチベーションアップにつながっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週、代表者は会議にて管理者やリーダーの意見を聞く機会を持っており、職員の誕生日会では個々の意見を聞くなどし、ケアの質の維持、向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の意見を取り入れながら必要に応じて研修や他施設の見学を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や、他施設との合同勉強会を通じて交流する機会がある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際には本人の要望を伺う時間を設け、ケアプランに反映させている。 本人の意思をくみ取れない場合には家族から生活歴等を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際には家族の要望を伺う時間を設け、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談の際に家族、本人から十分にアセスメントを取り、適切に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にはパーソンセンタードケアについての研修の時間を設け、利用者との関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との交流も十分に持ち、家族との信頼関係の形成にも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、なじみの美容院や友人との交流などこれまでの生活が続けられるように支援している。	近隣の友人が、ホームに訪ねてくることがあります。なじみの関係が途切れないよう手紙を書いたり電話をかけるなどの支援をしています。海外にいる家族のために、利用者の好きなファーストフード店で食事をし、写真付きのメールで様子を配信するなど、家族と利用者の良好な関係の継続に向けて支援しています。なじみの美容院や医療機関へは、家族の協力を得ながら出かけています。家族の訪問が多く、利用者と他の家族との会話や地域のサロンへの参加を通して、新たな関係が構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はグループホームの理念について学び、認知症の方が安心して生活できる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際にはフォローを行い、必要に応じた支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、または家族の意向が反映できるように3ヶ月に一度のケアプラン更新の際には意向を聞き取っている。日々の生活の中で知り得た情報の共有にも努めている。	入居時に、どのような暮らしを望むのか、終末期の意向と合わせて、記録に残しています。職員は日々の会話の中で、どのようなことをしたいか聞き取り、言葉での表出が困難な場合は、表情やしぐさから思いを推し量るよう努めています。また、日々の生活の中での気づきを各自がメモで残し、まとめることで情報を共有し支援に繋いでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には生活歴を伺う時間を持ち、入居後も本人、家族とのコミュニケーションを通して理解を深めながら日々の生活に活かせるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングや申し送りを通して現状の把握と情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングとケアプラン更新ごとのカンファレンスを通して本人や家族の意向や目標の共有を行い、話し合いを通してケアの改善に努めている。	介護計画の見直しは、3か月に1回行われています。日頃より家族と密に関係を築く中で得られた情報は、記録に整理しています。介護計画や利用者の留意事項などは皆で共有できるよう工夫しています。利用者や家族との関わりの中で、生活歴やできること、好きなことを知り、情報を得て計画に反映しています。介護計画は、日々実践し、記録に残しています。日々の記録を活用して、毎月モニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報は個別に記録し、共有している。必要に応じてカンファレンスにて話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望にできる限り対応できるようにネットワークを広げるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて買い物へ行ったり、地域のイベントへも参加して頂き、利用者にとってなじみの生活になるよう、支援せいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択、主治医以外の病院の受診などは本人と家族の意向に従う。必要に応じて医療機関への情報の提供や手配を行っている。	眼科、皮膚科等の受診の際は入居前からのかかりつけ医を受診している利用者がいます。外部医療機関への受診は、家族対応になっていますが、必要時には職員が支援しています。 週1回のホームの主治医、歯科医、訪問看護師の訪問があります。マッサージを希望し受けている利用者もいて、納得して医療を受けることができます。受診結果は家族・利用者に報告し、適切に対応しています。ホーム主治医、訪問看護ステーションとは夜間、緊急時を含めた24時間の連携体制を整えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の看護師から指示を仰ぎ、必要に応じて主治医と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族の意向を聴きながら入院先の病院と連携を取っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時についての確認書を取り、職員間でも共有している。 重度化した場合は主治医も交えて再度話し合いを持ち、本人の意向に沿ったケアができるように支援している	利用者、家族の希望に応じて重度化や終末期に向けて支援をしています。終末期の対応指針を作成し、入居時に「どの程度の医療を望むのか」、確認書で同意を得ています。また、状態に応じてその都度話し合いを行っています。開設以来、数名の看取りにかかりました。職員は、家族や利用者の協力を得て、終末期に向けての利用者の身体面の変化や精神面の思いを知ること、看取りについて考える機会を得ています。最後まで、寝たきりにならないよう、座位にこだわり、食事や排泄もできるだけ自立してできるよう支援しています。その人の望みを叶えたいと、家族の協力を得て、ラーメンを食べに行ったり、入浴を楽しんだり、できるだけ日常の生活を最後まで楽しめるよう工夫しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて各症状における急変の状況と対応を学び、緊急時のマニュアルを作成している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行っている。消防訓練には地域の方への参加も促し、緊急時には地域の協力も仰げるように関係づくりを行っている。 今年は、夜勤者にグループワークにて2人しかスタッフが居ない状態での避難方法をシュミレーションして頂く等、夜間についての災害対策も行っている。	年に2回、避難訓練を実施しています。そのうち、1回は消防署の指導を受け、地域の協力も得ています。今年は地震を想定した訓練を行いました。ホームは、電磁調理器を使用しており、スプリンクラー、火災警報器、消火器などの設備も整っています。非常扉は、警報とともに開錠するようになっています。居室が2階のため、夜間の災害時の対応を考えて、利用者と一緒に階段を下り、利用者の歩行の状態を把握したうえで、誘導の順番を考えています。	災害時に必要な飲料水などは、本部で保管していますが、ホーム内にも、必要な量の飲料水や食料などの備蓄が求められます。また、防寒具、懐中電灯、救急箱なども一か所にまとめて準備されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はパーソンセンタードケアについての研修を通じて実践に努めている。	人権や身体拘束廃止についての研修を行い、利用者主体を実践できるよう、日常生活の中でできるだけ自己選択できるような言葉かけの工夫や場面を提供しています。朝礼では、職員同士が大きな声で挨拶を交わし、「ウィル・フィロソフィ」の内容を読み上げ、人としてどうあるべきかなど、人格の尊重について考える機会となっています。言葉遣いや利用者への対応等、気になることを注意し合う環境が整い、利用者の人格を尊重したケアへと繋がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方との関わりについて学び、自己決定できるような関わりや環境整備を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好きなこと、楽しめることを見つけ、スケジュールを組まずに自然に楽しめるような環境づくりを心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで通りの生活を続けていただけるように、家族へもご本人の好まれる衣類を持ってきていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに立てる方、座って配膳できる方など一人一人ができることを考え、参加していただけるように声掛けをしている。 好きなものを食べられるように買い物へ行ったり、家族が持参したものも提供している。	食材は業者に依頼していますが、調理は3食とも利用者と一緒にホームで作っています。車いすの利用者にも味付けなどにかかわってもらい、一人ひとりのできる範囲で、食材の整理、食事の盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなどを担当しています。誕生日には、利用者の嗜好を取り入れた献立としたり、誕生日プレゼントとして外食することもあります。お寿司やたこ焼き、大好物のフライドチキンなど、できるだけ利用者の希望を聞き、食の楽しさを提供しています。嚥下が難しくなった場合でも、おいしく食べられるようにペースト食などの工夫もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分の摂取量を把握し、必要に応じて形態を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の助言をもらいながら一人一人のペースに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、ケアを行っている。 過剰なおむつの使用をしないよう、カンファレンスで話し合い、適切なケアにつなげている。	トイレは各フロアに3か所あり、1つは、リクライニングの車椅子でも利用できるような広さを確保しています。また、左右どちらに麻痺があっても自立してトイレで排泄できるように手すりなどの環境を整備しています。排泄チェック表を活用し、日ごろの行動パターンや本人の習慣を把握し、さりげなくトイレ誘導を行っています。利用者が快適に過ごせるよう、できるだけ布製下着を使用しています。また、おむつを使用する場合も、小さなパットを使用し、重ねて使用しないようにしています。夜間は、安眠との関係からおむつを使用する場合もありますが、必ず利用者や家族の希望を優先しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取やマッサージ、運動等で排泄を促し、家族の協力を得ながらヨーグルトなど本人に合った便秘対策を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせた入浴支援ができるように努めている。	週2回の入浴が基本ですが、本人の体調や希望に応じ柔軟に対応しています。水虫等で入浴できない日には、清拭や足浴を行っています。 浴室は明るく、ウッド風の壁面で小窓から外の緑が見え、居心地良い空間になっています。 入浴を好まない利用者への声かけの工夫として、一語一句を記録に残し、成功した声かけを行う事で、3週間入浴しなかった利用者が定期的に入浴するようになった事例があります。 楽しく入浴できるよう、湯船の側で職員が歌をうたい、話をすることや、入浴剤を使う等工夫しています。好みのシャンプーを使う利用者もいて入浴を楽しみにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活ペースに合わせたリズムが維持できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携を図り、薬剤師の指導を受けながら安全に内服できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を楽しめるような環境づくりに努め、毎日の生活にやりがいを感じていただけるように家事などを一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの希望にはできるだけ添えるように、時間を設けている。家族の協力を得ながら外出、外食の機会を作っている。	日常的に、道路に面した花壇への水やり、近隣のスーパーや公園への散歩、喫茶店や寿司屋、たこ焼き屋への外食など、できるだけ外に出る機会を作っています。地域の祭り、花見、初詣などの行事の取り組みも、家族の協力を得ながら、個別対応を心がけています。職員は、少しの時間でも外出の機会を増やしたいと思っています。1階のデイサービス前の駐車場は広く、玄関先で花壇を眺めながら外気浴も楽しむことができます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持し、買い物などの際に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や本人の希望に合わせて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に明るく、落ち着いた空間であるように心がけている。	うぐいす、ひばりの2ユニットのホームは、中庭からの採光で明るく、ゆったりとした空間となっています。中庭にはピーマン、ゴーヤ、キュウリなどの野菜を植えており、9月頃が収穫の時期となっています。また、紅葉の木もあり、四季を感じることができます。広く明るい食堂兼リビングには、台所で調理をする音や匂いが広がり、利用者の五感を刺激しています。また、ソファでくつろげるスペースもあります。各フロアには、トイレが3か所あります。エレベーターから2階に降りた各ユニットの玄関は、現在は掲示板を設けていますが、今後家庭的な玄関の雰囲気を醸し出せるよう、工夫していく予定です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームを談笑の場として活用している。落ち着かれないときには職員とお話できるようにカウンターを使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に好みの家具を配置していただくように説明し、日々の掃除の際に危険がないように配置に工夫している。	居室の表札は、写真や作品を貼り、利用者自身の部屋と分かるような工夫をしています。居室には洗面台、エアコン、電動式ベッドが備え付けてあり、カーテンは好きな色を選ぶことができます。居室の窓から外の景色を眺めることができ、ゆったり明るい部屋となっています。室内には、使い慣れたタンス、机、椅子、仏壇、テレビなど、危険物と冷蔵庫以外は自由に持ち込むことができます。カレンダー、ぬいぐるみ、家族の写真、花などを飾り、個性ある部屋づくりに努めています。また、床は木製ですが、安全性に問題ない範囲で希望に応じて、畳や絨毯を敷くことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身の回りのことが安全に続けられるように見守りを行いながら家事や趣味を継続してつづけられる環境づくりに努めている。		